



# ペチャクチャ カナダ人

英語指導助手/アシュリー・ペトルッチ

## The Road Less Traveled.....

When I was a child, I had a map of the world on my bedroom wall. Every time my parents and I took a trip (and later, when I was old enough to travel alone); I placed a pin at each location I visited. My curiosity for new places was limitless, whether it was a nearby town, across the border, or overseas, the places "out there" always piqued my interest more than my current surroundings.

I always wonder - why do people travel? Is it for relaxation; culture; nature; food? Is it to visit family or friends? Or is there some deeper meaning behind our adventures to new places? One of the most valuable reasons for traveling is to increase our understanding of the world around us, especially in today's global society, where even the smallest island is linked to the largest one. Furthermore, it is important to converse with people who are visitors in our own countries - not only to learn about their impressions of the place we call "home", but more importantly to learn about their worlds.

I no longer have a world map on my wall, but I am still curious about the many places in the world I have yet to visit - I do hope that you feel the same!

## 旅ゆかば

子供のころ、寝室に世界地図を張っていました。家族旅行のあとは（一人旅をするようになって）行った所にピンを刺したものです。まだ見ぬ土地への好奇心は果てしなく、近くの町であろうと国境の向こうや海外であろうとも、とにかくこことは違う「どこか」に強く興味がありました。



人ってなぜ旅をするのか、といつも思います。気晴らしか、文化的なものや自然、食べ物目当て？親戚や友人訪問？それとも未知の土地に行く目的以外に、隠れた深い意味はあるのでしょうか。旅の一番貴重なところは自分を取り巻く社会を理解することです。特に今日のようにグローバル化が進むと、世界最小の島でさえ最大の島と無縁ではられません。またそれだけでなく外国からの訪問者との対話も重要です。自分の国の印象を聞くだけでなく、相手について学ぶことが大切です。

もう世界地図こそ張っていませんが、未知の国への好奇心はまだまだいっぱいあります。皆さんはいかがですか。

(訳：宮地晶子)

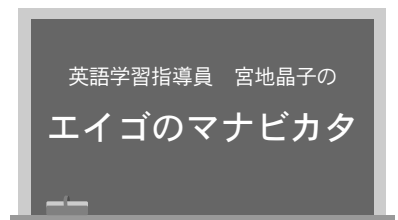
### 【ちょっと豆知識】

キュアリアサティ

好奇心といえば、こういう表現が有名です。「Curiosity killed the cat. 好奇心は猫の命とり」。1916年のワシントンポスト紙が初出のこの表現は、劇作家のユージン・オニールが使ってから広く世間に使われるようになりました。「人のことに首を突っ込むと火傷をするよ」と言うときに使います。でもこの表現はこんな言葉をつけていい意味で使えらると思います。Curiosity killed the cat, but satisfaction brought him back. 「好奇心が猫を殺した、でも満足感で生き返った」。好奇心を失ったら魂のほうで死んでしまいますからね。

「I have a dream 私には夢がある」で始まる人種差別のない社会を訴えた部分は、何度聞いても涙が込み上げてきます。またリンカーン元大統領

日本は以心伝心をよし、とするお国柄が、演説が話題になることが少ないように思います。アメリカはどうかというと、これはもう「語ってなれば」、のお国柄。大統領選でもテレビで何度も討論や演説が行われます。この印象が勝敗に大きく影響を与えるのですから指導者には発表力が欠かせません。そんなアメリカで心に残るスピーチを挙げるとしたらやはりこの3つでしょうか。まずはアフリカ系アメリカ人の公民権運動の指導者マルティン・ルーサー・キング。



第46回  
名演説をまねる

「Government of the people, by the people, for the people 人民の、人民による、人民のための政治」という演説はあまりにも有名です。この部分をマッカーサーが日本国憲法草案の前文に盛り込んだことはあまり知られていないのではないのでしょうか。そしてケネディ元大統領の「ask not what your country can do for you - ask what you can do for your country 国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを問え」は御存知の方も多いのではないのでしょうか。この3名全員が暗殺されたことを考えるとやりきれませんが、命がけで訴えかけてくるものがあります。歴代大統領をはじめとするアメリカの名演説の数々は国民の誰もが理解できるようにやさしい英語で書かれています。これをまねると生きる力が湧いてきて背筋も英語力も伸びること間違いなしです。American Rhetoric Top 100 Speeches や外国語広場というサイトにこれら名演説のスクリーンショット（原稿）があります。音声も聞けて、しかも無料です。